



青い目の人形友情交流会

ニュース・レター

NO. 17

1997. 4. 15.

桜の花前線がたちまち列島を北上し、華やかな彩りを広げ、春満開の4月となりました。今年は花見どきに雨が続き、「花に嵐」ならぬ花散らしの雨でした。お元気にお過ごしのことでしょうか。久しぶりにニュース・レターをお届けします。

今年は「日米友情の人形交流」70周年にあたります。各地の人形保存校や幼稚園などでは、ひな祭りに1927年に送られた人形や、ギュリック三世からの新人形を飾って、記念の集いをしております。

70周年の節目に、群馬、北海道、広島、熊本など各地の「友情人形」にゆかりの深い皆様のご招待で、6月から7月にかけて三世夫妻が来日され交流されます。

一世の宣教の地松山にも立ち寄られるなど、「人形交流」に熱心な浦安、香川、愛知、大阪、山形などの方々が、出会いと交流の好機を待ちかねておられます。横浜では6月下旬の歓迎会をめざし、大藤さん、武さん方がお世話くださっています。その大要は次のとおりです。

6月25日(水曜) 夕食会(会費制)

6月26日(木曜日) ギュリックさん講演会(横浜人形の家)

なお、詳細については未定です。

「友情の人形は海をこえて」出版

ニュース・レター16号で予告いたしました、ノンフィクション絵本「友情の人形は海をこえて」が、ようやく完成し出版されました。皆様のご支援に感謝いたします。一層、人形交流の事実が理解され、新しい人形交流が広まりますように願っています。

「友情の人形は海をこえて」ドメス出版社 定価1000+税



ようこそジャネットちゃん

山形県萩小学校

南陽市の萩小学校にギュリック三世からの「新友情の人形」が、贈られました。同校出身の加藤善一先生は、小学生当時学校にあった「友情の人形」を覚えていて、戦争を境に失われたことを残念に思っておられました。鈴木雄司さんのご尽力で、2月21日に新たな友情を込めた人形「ジャネット」が、萩小学校に届けられました。

地吹雪の悪天候の中、鈴木さんたちが山の小学校に到着すると、70人の子もたちは大喜びで歓迎したと、鈴木さんからのお便りでした。

鈴木雄司さんは、元山形第一小学校の庄司校長先生とともに、1991年に三世一家を第一小学校に迎え、すばらしい交流をされ、「牛力会」(牛力はギュ-

三世来日時の「記念展示」情報

各地では当会が所有してきた写真パネルや、地元発掘の写真、武田さん保存の大判写真なども使った、人形交流の大筋を示す記念展示が予定されています。群馬、北海道では日程が決まりました。期間中三世ご夫妻が会場を訪れます。皆さんのご参加とご支援をお願いいたします。

群馬県高崎市 高島屋 6月19日から24日

友情の人形19体、新人形22体を展示

北海道札幌市 三越 6月24日から29日

ミス北海道、友情の人形18体写真4体（本体に傷みがあるため）

人形ドリーも北海道展に展示

「友情の人形ドリー」が保存されていた、足寄町の上利別小学校は以前に閉校となったため、1970年代に佐々木正夫さん（元校長）が、個人で所有するよりしかるべき組織に託したいと、東京の世界平和子供協会に人形の保管を依頼しました。同協会では快くドリーを受け入れました。園田天光光会長をはじめ、メンバーの方々のご尽力で、各地開催の「平和の人形展」にドリーも展示され、使命を果たしてきました。

今度の北海道展に、「お願いできれば、ドリーを里帰りさせていただきたい」との地元の声を受けて、協会のご好意で里帰り展示が可能となりました。人形を保管していただいたり、また、里帰りを依頼したり、こうした地元からの願いをかなえてくださったことに、関係者はたいへんに感謝しております。

情報アラカルト

☆長野県上松町野中幼稚園の人形プリシラ・キングスレイ確認

1995年に名古屋市南山高等学校女子部の文化祭に、「青い目の人形展示」の新聞記事を読んだ夏目勝弘さんが調査されて確認しました。

夏目さんは同校の先生を通して人形所有の三ツ松裕子さんを知り、便箋6枚に人形に対するお気持ちを綴りました。そうしたところ三ツ松さんからお電話をいただき、人形の身の上が判明しました。

南山高等学校の文化祭に人形を出展したのは娘さんの江奈子さんであったそうです。裕子さんのお祖母さんの野中安伊（あい）さんは、大正1年に山深い長野県西筑摩郡（現在木曾郡）上松町で、米人宣教師の指導で野中幼稚

園を開いたそうです。この人形は1927年当時西筑摩郡で10体受け取った中の1体だったそうです。野中幼稚園は昭和23年、「上松保育園」として町に移管されるまで続いたそうです。戦争中に人形が危なくなっ、お母さんの野中幸子さんが大切に隠され、戦後は裕子さんのおもちゃ人形になっていたが、その後はしばらく忘れられていました。最近7・8年前から愛知県でも「青い目の人形」が新聞、テレビで報ぜられるようになり、大切な人形だと思い、京都の人形店で修復してもらい、洋服、帽子などを新調して大切にしているそうです。

今度の夏目さんのお便りを受け取って、信濃毎日の記事や、木曾郡誌などを詳細に調査されたそうです。夏目さん、三ツ松裕子さんお二人の熱意によるものです。

☆東京都台東区の人形が横浜人形の家へ

まだ詳しい情報が入ってきませんが、この人形は佐藤シサさんが保存していたものです。

戦後、進駐軍が学校に入るとのことで保存物の処分が行われたとき、佐藤さんが保護したとのこと。このほど佐藤さんから人形の家へ寄贈されました。

☆「Dolls of Friendship」復刻へ

アメリカのピッツバーグ在住のテリー・ヒーナさんのお便りでは、ギュリック三世と協力されて1929年刊行の同書の復刻版を5月末までに出版するとのこと。 「友情大使財団」を設立されたよしです。

事務局便り

3月3日の朝日新聞に「青い目の人形も泣いています 横浜人形の家 収蔵品にひびわれや変色も」との記事が載りました。館員の方にとって、ショッキングなものだったとのこと。観光施設としての人形展示と、博物館としての保存環境の保持との両立の困難に加え、予算が少なく万全の対策が取りにくい実情で、いろいろ困難があるそうです。

人形の家では館の改修計画があるとのこと、そうした危機状態を切り返して、最良の博物館にレベルアップしてほしいものです。人々が関心を持ち、観覧者が多くなれば、充実の博物館となりましょう。

ニューズ・レター17号 青い目の人形友情交流会 連絡先：0424(89)0895